





参謀總長及教育總監、以下署名

以下署名

別紙要領之概、制度調査委員ヲ設ケ陸軍  
諸制度ノ調査、任セシメ度及出席者也

陸軍省 第五七 號 三月十四日

右署名ノ手回答アリ克後

補任理ニ於テ任原ノ手續面計ハシメテ度

三月十四日附任原



省内各局長高橋臨時軍事調査委員長、連署  
 別紙要領ニ依り、制度調査委員ヲ設ケ、陸軍諸  
 制度、調査ヲ行ハシム

三月四日

大臣ヲ參謀總長及教育總監、田中兼  
 別紙要領ニ依り、制度調査委員ヲ設ケ、陸軍  
 諸制度、調査ヲ行ハシム

陸軍省 第七三號

三月四日

1600

(以下別紙ノ通)

別紙 遺 案 (関係ノ筋路)  
 在兼 要領ニ依リ 制度調査委員ヲ設ケ 陸軍諸  
 制度ノ調査ヲ行ハシム  
 年月日 陸軍大臣

秘

批

大正八年三月十九日 軍事課

制度調査委員設置ノ件

一 制度調査委員ハ陸軍大臣ノ監督ニ屬シ陸軍諸制度ノ調査ヲ行フ

二 制度調査委員ハ左ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

委員長 陸軍次官

委員 陸軍省人事局長

同 軍務局長

同 兵器局長

同 經理局長

同 醫務局長

同 軍事課長

同 臨時軍事調査委員長

同

✓參謀本部總務部長

同

✓同 第一課長

同

✓教育總監部本部長

同

✓同 第一課長

幹事

✓陸軍省軍事課長

同

✓同 軍事課課員二

同

✓臨時軍事調査委員 一

右ノ外必要ニ應シ所要ノ人員ヲ臨時出席セラル  
コトヲ得

三、委員長ハ陸軍大臣ノ指揮ヲ承ケ制度調査委員ノ

業務ヲ掌理ス

四、委員長ハ必要ニ應シ會議ヲ開キ議事ヲ整理シ

調査決定シタル事項ハ陸軍大臣ニ報告ス

1603

五、委員ハ委員長ノ命ヲ承ケ調査ニ従事ス  
六、幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス



秘

制度調査委員設置ノ件

一、制度調査委員ハ陸軍大臣ノ監督ニ屬シ陸軍諸制度ノ調査ヲ行フ

二、制度調査委員ハ左ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

委員長 陸軍次官

委員 陸軍省人事局長

同 軍務局長

同 兵器局長

同 經理局長

同 醫務局長

同 軍事課長

同 臨時軍事調査委員長

同 參謀本部總務部長

同 第一課長

同 教育總監部本部長

同 第一課長

幹事 陸軍省軍事課長

同 軍事課課員二

同 臨時軍事調査委員 一

右ノ外必要ニ應シ 所要ノ人員ヲ臨時出席セシムル  
コトヲ得

三、委員長ハ陸軍大臣ノ指揮ヲ承ケ 制度調査委員ノ

業務ヲ掌理ス

四、委員長ハ必要ニ應シ 會議ヲ開キ 議事ヲ整理シ

調査決定シタル事項ハ陸軍大臣ニ報告ス

五、委員ハ委員長ノ命ヲ承ケ調査ニ従事ス  
六、幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

制度調査委員設置ノ件

一、制度調査委員ハ陸軍大臣ノ監督ニ屬シ陸軍諸制度ノ調査ヲ行フ

二、制度調査委員ハ左ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

委員長 陸軍次官

委員 陸軍省人事局長

同 軍務局長

同 兵器局長

同 經理局長

同 醫務局長

同 軍事課長

臨時軍事調査委員長

參謀本部總務部長

- 同 參謀本部第一課長
- 同 教育總監部本部長
- 同 第一課長
- 幹事 陸軍省軍事課長
- 同 軍事課課員二
- 同 臨時軍事調査委員一
- 右ノ外必要ニ應シ所要ノ人員ヲ臨時出席セシムル  
コトヲ得
- 三、委員長ハ陸軍大臣ノ指揮ヲ承ケ制度調査委員ノ  
業務ヲ掌理ス
- 四、委員長ハ必要ニ應シ會議ヲ開キ議事ヲ整理シ  
調査決定シタル事項ハ陸軍大臣ニ報告ス
- 五、委員ハ委員長ノ命ヲ承ケ調査ニ従事ス
- 六、幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第 三 九 一 號

二 五 號

制度調査委員設置ノ件回答

大正八年二月廿七日 教育總監 一戸兵衛

陸軍大臣田中義一殿

首題ノ件ニ関シ二月二十四日附陸密第五  
七號照會ノ趣異存無之候也



新三九一六二

大正八年三月一日

制度調査委員設置件回答

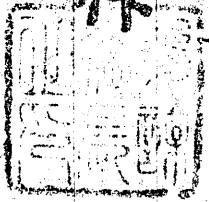
陸軍大臣田中義一殿

首題ノ件ニ對シ本月二日陸軍第五七號

ヲ以テ照會ノ趣異存無之候也

大正八年三月一日

陸軍省



1911

大臣 殿

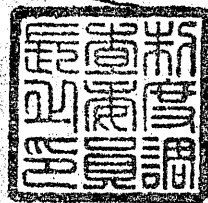
陸軍 第五

陸軍各部將校准士官下士相當官官等称呼  
改正ニ関スル件 答申

大正八年七月十五日

制度調査委員長 山梨 半造

陸軍大臣 田中 義一 殿



海軍部内ニ於テ各部將校准士官下士相當官官等称呼改正ノ  
議アルニヨリ陸軍ニ於テモ之ト歩調ヲ齊一ナラシムル為メ其ノ稱  
呼ヲ改正スルヲ可トスルヤ否ヤニ関シ別紙原案ニ就キ審議シタ  
ル結果待遇其ノ他ヲ變更セサル以上永キ歴史ヲ有スル名稱ヲ  
變更スルハ制度、教育上ニ於テ不利ナリトノ大部分ノ意見ニヨ  
リ現制ヲ維持スルコトニ決定致候條及報告候也





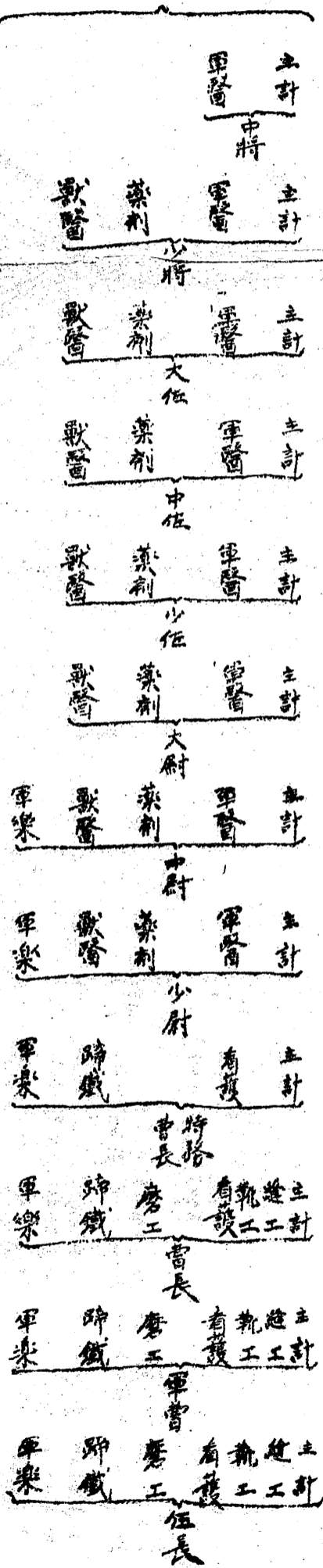
一陸軍各部將校准士官下士相當官官等稱呼ヲ別  
紙ノ如ク改正スルヲ要ス

理由

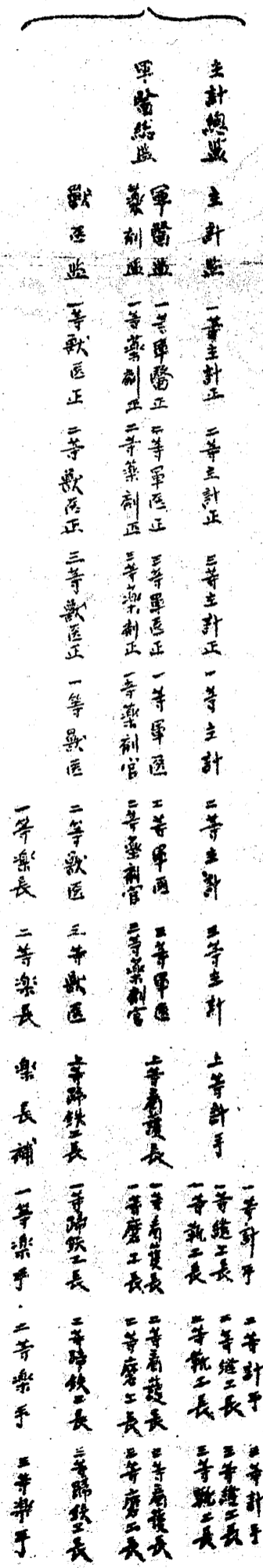
海軍ニ於テ近ク之ニ準シ稱呼改正ノ議アリ之ト  
歩調ヲ齊一ナラシムルヲ可トスルニ由ル

(別紙)

呼稱等官正改



呼稱等官現



1613



准尉制度改正ニ關シ議決ノ件報告

大正八年十二月二十二日

制度調査委員長 山梨 半造

陸軍大臣 田中 義一 殿



准尉制度改正ニ關シ別紙議題ニ就キ審議ノ結果今日ノ情勢ニ鑑ミ現准尉制度ハ之ヲ廢シ之ニ代ハル他ノ制度ヲ以テスルヲ可トス但シ其ノ方法ニ關シテハ更ニ研究ノ上審議スルコトニ議決致候条及報告候也

# 議 題

(大正八年十二月九日 軍事課)

## 准尉制度改正ニ関スル意見

### 要 領

本意見ハ准尉其者ノ可否、素質等ニ関シテハ暫ク之ニ觸ルルコトヲ避ケ研究ハ軍ニ帝國陸軍將校ノ人事改善上ヨリ之ヲ論シタルモノニシテ要スルニ現制准尉制度ヲ廢シ各兵科特務曹長中優秀ナル者ヲ授キテ士官学校ニ入校セシメ約一ト年<sup>同</sup>教育ノ後之ヲ少尉ニ任シ其ノ伎倆ニ應シテハ更ニ上級ノ位置ニ進級シ得ルコト恰モ普通ノ士官候補生ト同様トナスヲ適當トスルニアリ

### 理 由

一、大正九年度ノ豫算算成立セハ大正十一年度ニ至ラハ少佐以上ノ各階級ノ人員ハ理想定員ニ達セシメ得ヘキ目途立チ此ノ點ニ於テハ大ニ意ヲ強フスル所アリト雖元來

吾人ノ称スル理想定員トハ六尉以上ニ多數ノ人為的  
 陶成ヲ加フルモノトシテ算定セル定員ニシテ昨今ノ如ク  
 人為的陶成ヲ殆ト絶無ト為ス場合ニ於テハ此ノ理  
 想定員ノ基礎モ亦動搖ヲ来シ大正十三年度以後ニ  
 於テ更ニ新ナル理想定員ヲ定メ其ノ方針ニ向テ進  
 マサルヘカラス從テ本意見ノ根本トスル所ハ准尉制度  
 改善ノ理由トシテハ最少限ノモノニシテ更ニ前述ノ景況  
 ヲ研究セハ其ノ然ラサルヘカラサル理由ノ一層深甚  
 ナルモノアルヘシ

二、近ク經理官制度ノ改正セラルト共ニ經理部下級將  
 校ハ經理部並ニ各兵科准士官下士中ヨリ之ヲ補充  
 スルコトトナルヘク從テ各兵科下士中優秀ナル者ハ進  
 級ノ前途ノ極メテ極限セラレタル准尉ニ向テヨリハ寧

口前途アル 經理官ヲ志願スルニ至ルヘク從テ准尉ノ  
素質ハ今日ヨリモ一層低下スルニ至ルヘシ

又經理部將校ニ限リ經理部並各兵科下士ヨリ補充  
スル途ヲ開クニ於テハ自然ノ人情上下士志願者ハ  
多ク前途アル 經理部下士ヲ志願スルニ至ルヘク從  
テ本科下士志願ノ數ヲ減少シ且其ノ素質モ亦  
劣等トナルニ至ルヘシ

茲ニ於テ各兵科ノ下級將校モ 經理部將校ト同様  
下士ヨリ之ヲ補充シ得ル途ヲ開キ以テ素質良好ナル  
下士志願者ノ多數ヲ得ルノ途ヲ開カサルヘカラス

三、大正十三年度ニ於テ假リニ上良官以上ノ定員理想若ハ  
其ノ以上トナリタル場合ニ於テ各兵科大尉以下ノ理想  
定員ト現在員トノ關係ハ概テ次ノ如シ

職名	理想定員	豫想人員	過數
歩兵大尉	一、九四〇	二、三〇〇	三六〇
歩兵中少尉	二、九五七	三、八〇〇	八四三
准尉			
騎兵大尉	一、八四〇	三、八九〇	三、八九〇 (大正八年十月調)
騎兵中少尉	二、八一	一、九〇〇	六〇〇
准尉			
砲兵大尉	六六三	六、一〇〇	△五三三
砲兵中少尉	一、〇一〇	一、二〇〇	九〇
准尉			
工兵大尉	一、三八	八、八〇〇	八、八〇〇 (大正八年十月調)
工兵中少尉	二、一〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇
准尉			
准尉		三、五〇〇	一、四〇〇
		三、一〇〇	三、一〇〇 (大正八年十月調)

准	輜重兵大尉	一三八	一三八
	輜重兵中尉	二一〇	三四〇
	尉	一一	一三〇

(大正八年十月調)

之ヲ要スル = 各兵科ヲ合シ各階級理想定員 = 超過スル  
 数次ノ如シ

大	尉	四四一
中	少尉	一、三〇七
准	尉	五五五 (大正八年十月調)

尚本計數 = 加フル = 砲兵、輜重兵二年在營實施ノ為メニ  
 ハ左ノ如ク大尉以下ノ人員ノ増加ヲ見ルニ至ルハ止上  
 長官ノ人員ハ少数ナルヲ以テ計數ニ算入セズ

大隊 中少尉



砲兵	九一	五七八
工兵	一六	七一
輜重兵	一	二一

即チ此ノ人員ヲ合スレハ

大尉 五四九

中少尉 一九二二

准尉 五五五(大正五年十月調)

此ノ人員ハ即チ士官學校出身以外即チ現制准尉ヲ以テ  
 補フヲ至當トスル位置ナルカ大尉ノ位置ハ現制ヲ以テ  
 シテハ之ヲ准尉ヲ以テ之ヲ補フヲ得ス從テ大尉ノ位置  
 ニ充ツルニ士官學校出身者ヲ以テセハ大尉ヨリ少佐ハ  
 ノ進級ハ著シク遲緩シ延テ尉官ヨリ佐官ニ進級スルニ  
 著シキ停滯ヲ來スヘシ依テ此ノ大尉ノ位置モ亦之ヲ現

行准尉出身者ヲ以テ之ニ充テ一方士官學校出身者ノ進  
 級ヲ良好ニナスト同時ニ現行准尉出身者ニモ大尉以上  
 ニ進モ進級シ得ルノ途ヲ開クハ一擧兩得ノコトニ屬ス  
 此ノ點ニ於テ吾人ハ現行准尉制度ヲ廢シ新ニ下級將校  
 特別補充ノ途ヲ開クヲ至當ト為スモノナリトス  
 四、以上ノ如キ理由ノ下ニ假リニ現行准尉制度ヲ廢シ新ニ  
 下級士官ヲ本科下士ヨリ補充スルモノトセハ  
 其ノ素質ヲ向上シ教育ヲ完全ニナスタメムクモ一ケ年  
 間ノ特別教育ヲ施シ以テ初級士官タルノ資格ヲ與ヘ尙  
 任官後各兵科實施學校ヘ入校シテ修業ニ堪ヘ得ルノ資  
 格ヲ與フルヲ要ス而シテ之カ為メニ要スル經費ハ多少  
 増額スヘキモ現行准尉教育ニ要スル經費ニ多少ノ増額  
 ヲ行フニ於テハ決シテ困難ナルコトニ非サルナリ

各國陸軍ニ於ケル下士出身將校ノ資格及進級制限

(至八年十月廿一日軍事課印刷)

進級	資格	佛軍	英軍	米軍	伊軍	露軍
制限ナシ 計トシテ必キ要ナル校級ヲ得ルニシテ主トス	各兵科下士ニテ當該兵科將校生徒下士學校ヲ卒業セル者(但シ重兵科ハ砲兵科將校生徒下士學校ニ入校スルヲ得ルハ學校入校時ニ於テ下士ニテ服役年限二年以上有シ且其兵科ノ小隊長ニ任任証書ヲ發給シアルモノニシテ競争試驗ニ合格セル者トス	歩騎船重兵科ニテハ准士官及下士ニテ特別ノ功績アルカ新時校群ノ功ヲ奏セルヲ以テノ條項ニ該當スルモノヲ將校ニ任命ス 伍長以上ニシテ服役年限二年以上有シ且其兵科ノ小隊長ニ任任証書ヲ發給シアルモノニシテ競争試驗ニ合格セル者トス	正規軍ノ下士ニテ將校任用試驗ニ合格セル者 將校任用試驗ヲ受ケルハ年齢三十歳以下ナル未嘗ノ米國公民ニシテ陸軍出身後二年以上ヲ經過セルモノトス	各兵科下士ニテ四年以上服役シ且ツ士官學校内ニ設置セル特別課程ヲ卒業シタル者 但シ砲兵兵ニテハ要スレバ五年半以上服役者ニテ進級各員ノ推薦ヲ經テ試驗ニ合格セル者ヲ以テス 下士出身者ハ各兵科要員ノ四分ノ一ヲ占ム	部隊長ノ推薦セル下士卒業速成士官學校ヲ卒業セル者	
制限ナシ	制限ナシ	制限ナシ	制限ナシ 計官ニ在リテハ一般ニ進級試驗ノ結果ニヨルモノトス	制限ナシ	制限ナシ	

近衛師團

大正八年師團長會議ニ於テ  
提出セラレタル准尉制度改正意見

第四師團

准尉ヲ中尉相當ノ階級迄進ムルヲ可トス

第十四師團

准尉制度ハ平時ニ在リテモ中尉以上ニ累進スル  
道ヲ開カレタシ

平時ニ於テモ實役停年四年以上ニシテ成績  
優等ナル准尉ハ之ヲ中尉ニ任スル如ク改正セラ  
レタシ

大正八年十二月海軍ニ於テ  
 准尉制度改正ノ要旨

- 一、准尉制ヲ廢シ新ニ特務士官ノ官階ヲ設テ特務少尉、特務中尉、特務大尉トナス
- 二、此等ハ兵學校機關學校又ハ經理學校ニテ若干月ノ特務教育ヲ施シ其ノ科ノ特務少尉ニ任用ス
- 三、右以外ノ准士官ハ勤務年數五年以上ノ者ヨリ選拔シテ各科特務少尉ニ任用ス
- 四、特務大尉ハ特選ニ依リ少佐ニ任用スルコトヲ得